KKR札幌医療センター
KKR Sapporo Medical Center

平成２８年１０月３日発行
発行所：ＫＫＲ札幌医療センター
発行責任者：地域連携・がん相談支援センター
センター長　本多　敏朗

地域連携・がん相談支援センターだより

Regional alliances and support

2016
55号

「食欲の秋」　撮影者：放射線科部長　永倉久泰

目　次

1. 副院長就任のご挨拶
2. 診療部長就任のご挨拶
3. 診療部長就任のご挨拶
～科学的根拠・技術とマインド～
4. 北海道肺がん患者と家族の会
5. 連携医療機関のご紹介　「れんけいの輪」
7. 地域連携・がん相談支援センター新スタッフ紹介
8　地域連携医　講演会・懇親会のご案内
9. ＫＫＲ札幌医療センターの理念・基本方針
編集後記
地域連携・がん相談支援センター職員一覧

別紙 北海道肺がん患者と家族の会

副院長就任のご挨拶

副院長　小　池　雅　彦

2016年7月1日より副院長にご推挙いただきました外科の小池雅彦と申します。1983年北海道大学医学部を卒業し、北大第一外科に入局いたしました。その後各地の関連病院を回り、大学に戻ってリサーチを行ってから、1996年に当時の幌南病院に赴任し、今年でちょうど20年勤務しています。

考えてみますと、この20年の間に医療全般も外科の世界も大きく変化いたしました。特に私の専門とする癌の分野での変化は大きかったと思います。癌の手術に腹腔鏡や胸腔鏡が使用されるようになったこと、抗癌剤治療が飛躍的に向上し、担癌患者さんの寿命が非常に伸びたこと、この2つは実に有意義であり、現在も益々向上していることは驚きです。ちょうど25年前に北海道で初めての腹腔鏡下胆のう摘除術が行われましたが、15年ほど前から大腸癌にも応用が始まり、10年ほど前から肺癌・胃癌にも応用され、肝臓・脾臓・膵臓などにも応用が広がっており、その手術件数は年々増加の一途をたどっています。腹腔鏡や胸腔鏡手術がなぜ増加しているかというと、まず患者さんに優しいということが挙げられます。以前であれば20㎝も30㎝も切開して臓器を切除していたものが数cmの傷をいくつか開けるだけで、開腹や開胸と全く同じ手術ができるようになったため、術後の患者さんの回復が非常に速くなり、合併症も減り、傷も目立たなくなりました。また、手術に参加している者全員が同じ視野で手術を見ることができるようになったため、若手医師の教育にも非常に役に立っています。一方、抗癌剤ですが、以前は「患者よがんと闘うな」という本がブームになるほど抗癌剤治療は副作用ばかりで、有効性はわずかなものでした。しかし、種々の抗癌剤の開発が進み、さらに分子標的薬の登場により、抗癌剤治療は以前とは全く別の次元になったと思います。また抗癌剤治療の方法も変化しており、現在では外来で抗癌剤治療をすることが多くなりました。2017年4月からは現在7床で運用している外来化学療法室が、倍の14床となります

今後も地域に根差し、連携医の先生方のご期待に沿えるように努力してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

診療部長就任のご挨拶

診療部長・放射線診断科部長　秋　葉　英　成

地域連携いただいている機関の皆様には常日頃から多大なご支援を賜り、ありがとうございます。

さてこのたび私、7月1日付で診療部長を拝命いたしました。これまで一診療医としての仕事に加え、診療部次長の仕事も仰せつかっておりましたが、必ずしも充分な役割を果たして来たとは言えず、今回の件はまことに恐縮する次第であります。しかし、お引き受けした以上、新たな気持ちで患者さんや病院はもちろんのこと、地域連携機関の皆様の診療に少しでもお役に立てる様に努めていきたいと思います。

私の専門は放射線診断で、前任者から引き継ぎ当院に赴任して 7 年目になります。当初は一人で出来る限りの診断業務に携わっていましたが、現在は3名の常勤医体制で、画像検査（CT、MRI、RI）の診断のほとんどの報告を検査当日に、時間外を含めた全ての報告を翌診療日までに行なっています。地域連携機関の先生方におかれましては、いつも検査のご依頼で患者さんを紹介していただき、また、お忙しい中での沢山の診療情報のご提供に、大変感謝しております。今後も安全で適確な撮像法の選択と、迅速で丁寧な診断の報告を心掛けて参ります。

放射線診断業務をしていますと、特にご高齢の患者さんでは幾つかの診療域に渡る併発病変や合併症がみられることが多く、複数の専門診療科による総合的な診療の必要性を常々痛感しています。昨今、日本社会の高齢化が急速に進みつつある中で、その重要性はますます増していると思われます。当院は、各診療科の医師の連携はもちろんのこと、医師以外の各診療部門のスタッフとの連携も綿密に行なわれ、円滑に協力し合う診療体制が整っております。私はまだ診療部長の具体的な役割を充分に理解しているとは言えませんが、日進月歩の医学や変動する医療制度に適宜対応しつつ総合診療体制の更なる成熟を目指して、出来る限りのお手伝いができたらと考えております。

歴代病院長が掲げる「がん診療」と「救急医療」の2本柱が当院の診療の基軸です。そしてこれらと各診療部門を合わせた「総合診療」の充実が当院の持ち味の一つです。地域連携・がん相談支援センターのスタッフを中心に、地域連携機関の皆様にご相談やご協力を仰ぎ、紹介いただいた患者さんの診療と、退院後や転院後の行き届いた支援に繋がるよう、尽力していきたいと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

診療部長就任のご挨拶
～科学的根拠・技術とマインド～

診療部長・緩和ケア科部長　瀧　川　千鶴子

平素より、大変お世話になっております。

この7月から診療部長を仰せつかりましたが、何をすべきか、何からすべきかを考え、右往左往する毎日です。ところで、今年はリオ・オリンピックが夏を彩り、皆様も連日お茶の間のゴールド席から若き勇者に熱いエールを送ったのではないでしょうか。メダルをとる目標があり、その戦略として科学的な根拠に基づく練習、諦めない精神力、そしてマインドを養ったからこそ達成できた結果だったように思います。

私は20年前より緩和ケアの分野で仕事をさせていただいております。当時、多くの医療者が目を背ける終末期のケアに関する教科書は「Oxford of textbook of Palliative Medicine」と言う素晴らしい本が 1 冊あったものの、それを知るのは1年経た頃であり、多くの患者さまとご家族を必死に看ることのみが自分の学びでありました。「死に逝くひとへの光は何か」を自問自答しながら悶々と闇のトンネルの中にいたのを思い出します。すこしずつ明かりが見えて来たのは、世界で何をしているのかを知り、患者・家族のために何が好ましいことなのかをスタッフと話合い、一つになって取り組むことが可能だったからです。しかし、がん患者の割合が本邦でも急増するなか、平成17年にがん対策基本法が制定され、緩和ケアは「いつでも、どこでも、だれもが切れ目なく享受可能」とされ、最近は「診断された時から緩和ケア」と国がうたっています。このままでは「生まれた時から緩和ケア」になるのではないかと心配になります。抗がんの治療は根拠に基づいて発展してきましたが、医療者のコミュニケーションやマインド能力が伴ってこなかったことから市民団体の不満の矛先が緩和ケアに向けられた感があります。狭義にはなりますが、緩和ケアの真髄は「安全に死ぬことができるプロセス」で、ここに専門性があると考えています。この数年で、症状に対するコホート研究や多くの RCT・前後比較研究がされ、各種ガイドラインも出版されたことから、「数値的な有症状の改善=緩和ケア」と勘違いされがちです。しかし、症状緩和のみならず、専門性の高いケア、つまり「プライスレスな癒し」が QOL を向上させたのは、テメルやコーエンの報告から知ることができます。先日読んだ、Whole person care という本のなかに、マギル大学での医師誓約が紹介されており、「科学、自然界、国家、個人的な信念、あるいは自らの生命を守りたいという欲求に対しても召使とならず、自ら死すべき運命を理解し、人々が癒され、束縛から解放され、人生を謳歌することができるように努めます」とありました。海外と日本の教育の差、国の求める豊かさの質の差にカルチュア・ショックを受けるのでした。おそらく、科学的な視点で注目されてきた医療は、今後はマインド力も加味して評価される時代となると考えています。科学的根拠とマインドを持った連携による患者の QOL・満足度の向上は、この病院の役割の一つと言えましょう。

今後とも、ご指導・ご鞭撻宜しくお願いいたします。

北海道肺がん患者と家族の会

医療社会事業相談室 社会福祉士(主任)　松　田　知　恵

北海道肺がん患者と家族の会は、肺がんと診断を受けた患者さんやそのご家族が、語り合い、情報交換する場となっています。

平成 26 年 5 月に発足した患者会ですが、当院が「地域がん診療拠点病院」としてお手伝いをさせていただくようになったのは、平成 27 年の 5 月からです。

奇数月の第 1 水曜日（祝日の場合は次の週）午後 1 時から 3 時まで、出入りは自由で開催しています。事前予約は必要ありません。参加者は、毎回 30 ～ 45 名程度で、札幌市内の様々な病院に通っている患者さんやそのご家族、時には、市外の患者さんやご家族もいらっしゃいます。

会の流れですが、15分程度のミニ講話から始まります。これまでには、アドバイザーとして参加している磯部院長からの「肺がん」の講話や薬剤師からの「抗がん剤」の講話、皮膚排泄ケア専門の看護師から「抗がん剤治療中のスキンケア」についての講話、がん看護専門看護師から「緩和ケア」の講話などをしてもらっています。講話の後は、各テーブル 5 ～ 6 人の方がグループに分かれてお話しされています。患者さん同士だからこそ本音で語り合える病気、治療、生活の悩みを話し合い、励ましたり励まされたりしていらっしゃる様子も見られます。また、ご家族の立場から患者さんを支えていく思いを語り合ったりもしていらっしゃいます。

同じ経験を持つ患者さんやご家族のお話を聞くことで、気持ちが軽くなったり、療養生活を少しでも快適に送る知恵を得られることがあります。ほかの患者さんとお話しすることで、病気と闘っているのは自分一人ではないと孤独から救われる方もいらっしゃいます。

患者さんやそのご家族が有意義な時間を過ごせるように、微力ながら当院のスタッフも参加させていただき、ご相談をお受けしています。

様々な病院の肺がん患者さんやご家族が参加されています。いつも連携させていただいている医療機関の肺がん患者さんやそのご家族様にも、ぜひご参加いただければと思います。（別紙をご参照下さい。）

日頃、連携をさせて頂いている当院の連携医の先生を紹介します。
今回は「百町整形外科内科呼吸器内科」の小栗　満先生と「医療法人社団　鈴木内科医院」の鈴木　岳先生をご紹介致します。

百町整形外科 内科呼吸器内科

院長　小　栗　　満

〒005-0841
札幌市南区石山１条２丁目1-22
☎ 011-591-2100　Fax 011-591-3550

2015年6月から南区石山の百町整形外科に新たに内科を併設し、百町整形外科内科呼吸器内科として開院させていただきました。

掲載していただくのに申し訳ありませんが、私は、過去に病診連携のいろいろな病院からの紹介雑誌やパンフレットを送られて、表紙は見たことはありましたが、読んだことはありませんでした。

前置きが長くなりますが、目を通していただき誠にありがとうございます。私の前任地は苫小牧市の王子総合病院で呼吸器内科医でした。突然、札幌のこの地で義父である整形外科の理事長と新たなスタートを切りました。新たな開院にあたり、KKR札幌医療センターへ挨拶にお伺いしました。

こちらは、一介の新参者にもかかわらず、御丁寧に病院の説明などしていただき、多大なる感謝と同時に、困った時には是非ともこの病院に患者様をお願いしたいという気持ちになりました。ただ、実際に紹介しようとした時には、地域連携室への連絡など、田舎出身の私には、なんとハードルが高いのだろうと言う思いでした。

これが都会の病院かとあきらめざるを得ないのが現実でしょうか。今までは、突然電話が鳴って、他院の医師からの患者様の依頼が入ってきて、断ることも出来ず、有無を言わさず入院という状況でした。勿論、私一人で対応するわけでは無いのですが、中には遠方から紹介されても全く異常が無い患者さんもいます。

その様なときに若い医師が、やっぱり偽物だ　　、と言う状況を何度も見てきました。逆に言うと、送る側にも見分ける能力が必要なのですが、その時間や設備の問題で見極めが出来ないことも多々あります。

このように言って何でもお願いしますからという訳ではありませんので、ご安心を。

このような機会をいただいたにもかかわらず稚拙な文章で申し訳ありません。次回、何年か先に再度このようなチャンスをいただければ幸甚に存じます。

これから長いお付き合いになると思いますのでよろしくお願い申し上げます。

医療法人社団
鈴木内科医院

院長　鈴　木　　岳

〒004-0844
札幌市清田区清田４条２丁目 10-25
☎ 011-882-2233　Fax 011-885-9238

診療科目
　内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科
　機能強化型在宅療養支援診療所
　付属介護事業　訪問看護、訪問介護、
　通所リハビリセンター、訪問リハビリ、
　サービス付き高齢者住宅、グループホーム、
　居宅介護事業所

　当院は父である現名誉理事長　鈴木重設が昭和55年9月8日に清田区清田4条2丁目に開業いたしました。
　当地で30年もの間、内科、消化器内科、在宅医療を中心に地域医療に尽くして参りました。
　平成23年11月より北海道大学第三内科（現消化器内科、血液内科）関連病院の市立稚内病院、北楡病院、北大病院、社会保険総合病院（現北辰病院）、スウェーデン王立カロリンスカ大学病院消化器科などでの勤務をへて鈴木　岳、晃子が院長、副院長に就任いたしました。

　私たちは消化器科のみならず、地域のかかりつけ医として外来と検査から在宅往診、学童から終末期まで幅広い診療を行っております。
　「Love and care」をモットーに清田地区の医療と介護を支える仕事に挑戦しています。
　自法人の地域包括ケアシステム（医療と介護業）を核に近隣の医院と信頼できる他介護事業所、そしてKKR札幌医療センターをはじめとした急性期病院と連携することで、医療でも介護でもお困りの地域住民に安心される道筋をつけてあげられるようになったと自負しております。
　在宅診療ではお世話になった地域の方々を自宅や付属施設で最後まで支えるよう努めております。
　そのような中、いつもKKR札幌医療センターには急変患者さんを快くお受けいただき感謝しております。
　私どももKKR札幌医療センターで大事に診てこられた患者さんを逆紹介いただけるに足る法人を目指して参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

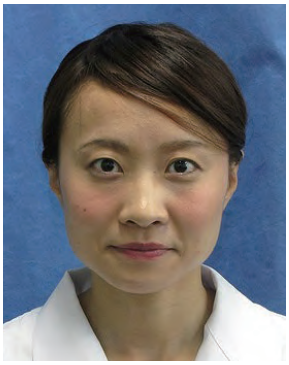
院長　鈴木　岳
消化器病専門医、内視鏡専門医、内科認定医
スウェーデン医師免許
札幌市医師会地域包括ケア推進委員会清田支部委員
北海道スウェーデン協会常任理事
北海道カーリング協会強化部委員
札幌カーリング協会強化部部長
平成 28 年度日本オリンピック委員会強化スタッフ（カーリング競技）

副院長　鈴木　晃子
消化器病専門医、内視鏡専門医
内科認定医、スウェーデン医師免許

地域連携・がん相談支援センター新スタッフ紹介

折　舘　和　慶（おりだて　かずよし）

初めまして。7月1日より当院地域医療連携・がん相談支援センター企画課長としてお世話になることになりました折舘和慶と申します。前職は KKR ホテル札幌にて高校・大学アルバイトを経て職員採用になり在職年数は 35 年と長期に渡り従事して参りました。同じ KKR（国家公務員共済組合連合会）の組織に属していたので医療センターの一部の方々はセールスを通してお近づき頂いていた方もいらっしゃいますがもちろん病院勤務は初めての事であり、これからの自分がどのように変わっていくのか、不安と期待等様々な思いが交錯しております。ホテルでは経理･フロント･サービス･宴会会議婚礼受付･営業（セールス）とほとんどの課に従事しておりました。前職で養ったノウハウやスキルや人脈を生かしどのような形で当院にフィードバック出来るか今のところ未知数ですが、ホスピタリティの基本は同じだと思っておりますので共通点を見出し模索している所でございます。しかしながら病院に関しては全くな無知な素人でございます、出来る限り皆様にご迷惑をおかけすることなく、円滑な連携が出来るよう努力していく所存です。その為には皆様のお力添えが必要でございますので今後ともご教示・ご指導の程宜しくお願いいたします。



桃　内　愛　実（ももうち　まなみ）

平成 28 年 8 月より医療社会事業相談室のソーシャルワーカーとして勤めることとなりました。以前は回復期リハビリテーション病棟の退院支援に携わっておりましたが、今回急性期での支援は初めてとなります。日々幅広い診療科において勉強させていただくことが多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、少しでも早く患者様のお役に立てるよう努めてまいります。地域の関係機関の皆様におかれましても今後とも宜しくお願いいたします

KKR札幌医療センター
地域連携医 講演会・懇親会のご案内

この度、三年ぶりに KKR ホテル札幌におきまして、連携医の先生をお招きして講演会・懇親会を開催することとなりました。今回は 4 月に北海道大学病院より着任致しました、小児アレルギー・リウマチセンター長の小林一郎医師をはじめ、磯部宏病院長、本多敏朗地域連携・がん相談支援センター長を予定しております。多数のご参加をお待ちしておりますので、よろしくお願い申し上げます。

日時：平成28年11月26日（土）午後4時30分～

場所：KKRホテル札幌　札幌市中央区北4条西5丁目

☎011-231-6711

演題（仮題）

- 肺癌で命を落とさないために―早期肺癌を見つける！　病院長　磯　部　　宏
- 糖尿病診療におけるちょっとした工夫～コーチングを意識して～
  地域連携・がん相談支援センター長・代謝内分泌科部長代行　本　多　敏　朗
- 小児のリウマチ性疾患　小児アレルギー・リウマチセンター長　小　林　一　郎

主催:KKR札幌医療センター／地域連携･がん相談支援センター

KKR 札幌医療センター

理 念

「病院は人」のこころで、活力ある病院、選ばれる病院を創ります
生命の尊厳を保ち、健康の回復につくします
温かな配慮で安寧（あんねい）につくします

基 本 方 針

1．“生活の質”向上に重きをおく医療を心がけます
2．安全を確保し、時代を先取りした医療を推進します
3．患者さんの声に耳を傾け、分かりやすく説明します
4．医療の情報を進んで開示します
5．地域に信頼される医療を目指します

編 集 後 記

この夏、４年に１度開催されるオリンピックに釘付けになり、様々な熱い戦いから勇気と感動をもらいました。そして北海道の短い夏も終わりを告げ、朝晩の肌寒さにすっかり秋を感じる季節、皆様いかがお過ごしでしょうか。

当院診療部も新体制となり、また地域連携・がん相談支援センターにも新たに２名のスタッフが加わりました。今まで以上に連携医療機関の皆様、患者様のお役に立てるように努力していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

在宅看護・退院支援室　池　　好　未

KKR 札幌医療センター

〒062-0931 札幌市豊平区平岸１条６丁目 3-40
TEL 011-822-1811(代)

連携いただいている先生方よりお受けしております
地域連携室直通　TEL　0120-552-303
FAX　011-832-9624

医療施設・患者・家族よりお受けしております
がん・緩和ケア相談　TEL　011-832-3260

地域連携・がん相談支援センター職員

センター長	本多 敏朗	
副センター長	白井 真也	
センター師長	平山 さおり	
〃	湯瀬 美佳子	（兼地域連携室 室長）
地域連携企画課長	折舘 和慶	
地域連携室	守屋 恵	看護師
	藤島 尚子	看護師
	島田 久子	看護師
	大石 ひろみ	事務員
	小口 知美	事務員
医療社会事業相談室	松田 知恵	社会福祉士（主任）
	木村 府佐子	社会福祉士
	宮崎 雪枝	社会福祉士
	桃内 愛実	社会福祉士
在宅看護・退院支援室　室長	平田 公子	看護師（主任）
	池 好未	看護師
	小松 友希	看護師